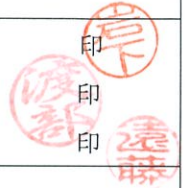


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

甲・㊦	氏名	布野 慶人
学位論文名	Factors Associated with Return of Spontaneous Circulation in Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest Cases	
学位論文審査委員	主査	岩下 義明
	副査	渡部 広明
	副査	遠藤 昭博



論文審査の結果の要旨

心肺機能停止患者の社会復帰ためには、出来るだけ早期に自己心拍再開（ROSC）となることが重要とされている。これまで心肺機能停止患者が病院へ到着した後でのROSCに関わる因子については論文が散見されるが、病院前救急医療における検討はほとんどない。そこで申請者は、病院外心肺機能停止（OHCA）症例の病院到着までのROSCに関わる因子についてウツタイン様式データベース（総務省消防庁）を用いて横断的研究を行った。2010年に日本で発生したOHCAのうち除外症例以外の30,704例を用いた。記述統計ならびにロジステック解析を行った。ロジステック解析ではROSC有無の2群とし、独立変数は「年齢」「性別」「救急救命士乗車」「医師乗車」「医師二次救命処置」「市民心肺蘇生」「市民除細動」「通信指令課職員口頭指導」「初期心電図波形」「救急隊除細動」「救急隊の器具による気道確保」「救命士エピネフリン投与」「心原性」「目撃から覚知までの時間」「目撃から心肺蘇生までの時間」である。無しを基準値1としてオッズ比（OR）を求めた。多変量解析におけるORは、初期心電図 心室細動/心室頻拍（VF/VT）：7.87（7.09-8.72）、救命士エピネフリン投与：3.09（2.84-3.35）、医師乗車：3.06（2.68-3.49）、救命士乗車：1.56（1.17-2.09）、市民除細動：1.55（1.22-1.96）の順にROSCに対して高い寄与を示した。これらの結果は、地域の除細動機器 AED 視認性、VF/VT 症例を早期に目撃する仕組み、救急救命士による薬剤投与、ドクターカーの有用性について検討していくことがOHCAでのROSC割合を上昇させる可能性があることを示唆している。本研究は、今後重要となってくる病院前救急医療あり方改善のための有益な知見であり、学位授与に値する成果である。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は心肺停止患者の総務省消防庁のデータから病院前自己心拍再開に影響する因子を調査し、エピネフリン投与や医師同乗など新たな知見を発見した。学位審査では過去の報告と自身の経験に基づく考察を述べることができ、本研究の限界や課題についても理解していた。次の研究に繋がる課題設定も出来ており、学位授与に値すると判断した。（主査：岩下義明）

申請者は、総務省のウツタイン様式データベースを活用して、病院前心肺停止患者における心拍再開の因子について検討を行い、初期VF/VT波形、アドレナリン投与、医師同乗が有意な因子であることを明らかにした。審査時における質疑応答では適切な応答が出来ており、研究領域に関連する基礎的知識も十分であることから、学位を授与するに値するものと判断した。（副査：渡部広明）

申請者は心肺停止患者の予後改善には病院到着前の自己心拍再開が重要という仮説に基づき、ウツタイン様式データベースを用いて病院前自己心拍再開に関わる因子を明らかにした。現在、病院前救急医療として行われている行為の有効性が検証され、今後の改善点についても考察されていた。審査時の質疑応答も適切で、学位授与に値すると判断した。（副査：遠藤昭博）

（備考）要旨は、それぞれ400字程度とする。